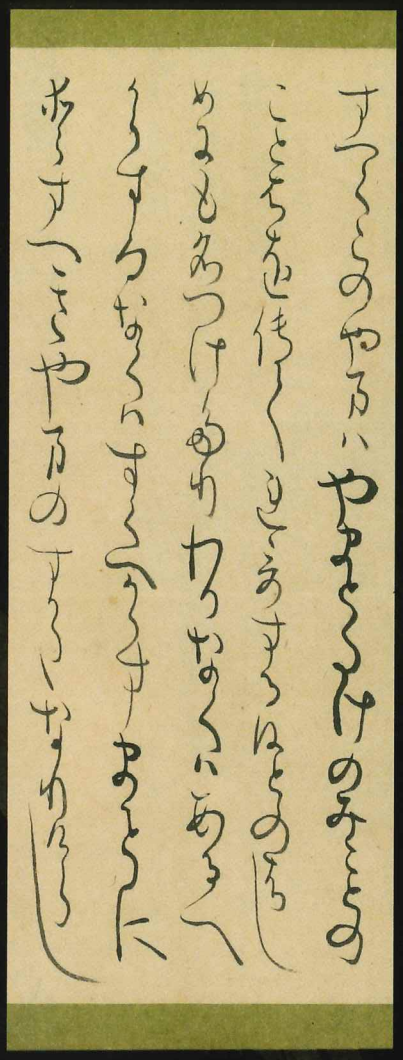
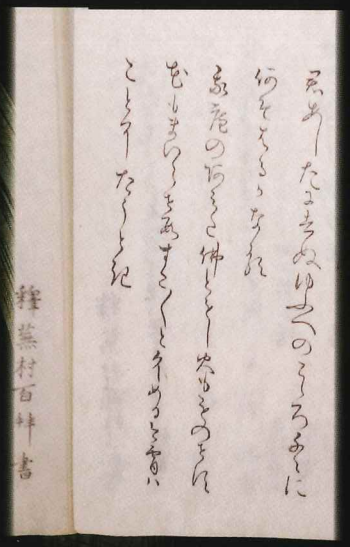
令和４年度
特設展示

茨城の俳諧

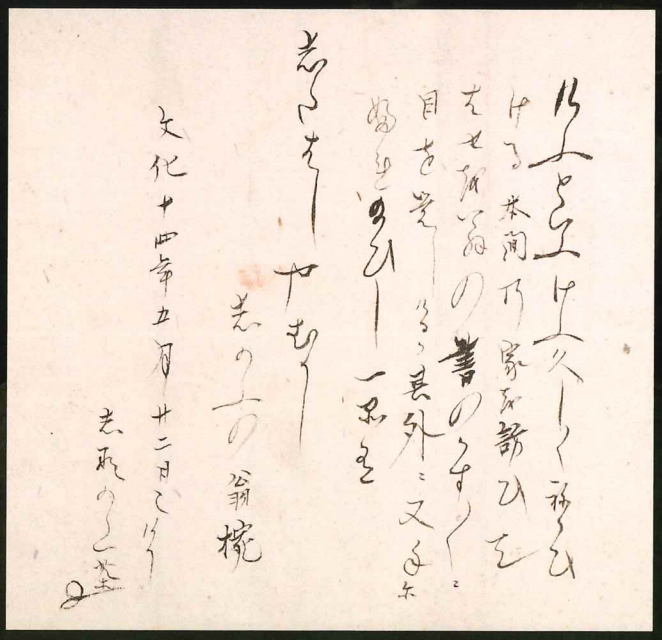
―芭蕉・蕪村・一茶が訪れた茨城―



出陳資料2・4 『鹿島紀行』（天理大学附属天理図書館蔵）



出陳資料８ 『いそのはな』（東京大学附属図書館蔵）



出陳資料 16 翁椀句文（「ひろはの風」）（神奈川県立図書館蔵）

茨城県立歴史館

34 『俳諧一葉集』（当館蔵）

京都出身の古学庵仏兮と水戸藩士岡野湖中が編集した全国で最初の芭蕉全集である。全九巻の構成は、発句（春・夏・秋・冬・無季・考證）之部、附合之部、紀行之部、文之部、消息之部、句合評之部、遺語之部、附録に分類されている。書名は湖中の序文によれば、「『只ひとつ葉の一』といふにならひて」とあり、俳諧一筋に生きた芭蕉の生涯を象徴する芭蕉句から採っている。青郊が愛宕山に建立した芭蕉句碑（出陳資料18）の句である。

35 古学庵仏兮墓碑（水戸市）

仏兮は京都の僧であったが、寛政八年（一七九六）に水戸に来て、笠原山銀河寺の住職となった。仏兮は水戸の岡野湖中とともに芭蕉全集『俳諧一葉集』の編集を企画していた。ところが、文化元年（一八〇四）九月一三日、比叡山に向かうために甲斐の鰍沢を舟で渡った際に舟が転覆して母と共に溺死してしまう。それ以来湖中は『俳諧一葉集』を一人で編集したが、仏兮没後一三年目に刊行した際には、仏兮を共編者として明記している。

36 岡野湖中墓碑（水戸市）

湖中は寛政一一年（一七九九）以降、「寥窓湖中」と号していたが、文化七年（一八一〇）自身の屋敷内（現水戸市城東三丁目）に離れ家の四壁堂を結んで「幻窓湖中」と号するようになった。文政一〇年（一八二七）に『俳諧一葉集』を刊行し、同年夏には塩竈・松島まで旅をした（湖中自筆日記『三月越』）。その際、雨考・多代女（須賀川）、紫明・与人（二本松）、古翠（出羽）、きよ女（仙台　乙二の娘）らと交流している。念願の奥州紀行を果たした湖中はその四年後の天保二年（一八三一）、五六歳で没している。

37 岡野湖中旧蔵「半面美人」点印・「芭蕉葉」印（当館蔵）

「半面美人」印は、新奇な最高点句に捺印された点印（句の点数を表す印）で、芭蕉の弟子の其角から江戸の深川湖十、水戸藩家老の太田資胤（一世湖中）、水戸藩士近藤助五郎（二世湖中）へ継承されたと伝わっている。「芭蕉葉」印もまた歴代の湖中によって継承されたようで、『幻窓湖中』（有馬徳著）には、「舟と成帆と成風の芭蕉哉」の芭蕉の健吟（この句は芭蕉作ではなく江戸の一晶のもの）にもとづいて、一世湖中資胤が「雪月花つむ芭蕉葉や宝舟」と詠んだ書簡を紹介している。寛政二年（一七九九）七月一四日、岡野湖中は二世近藤湖中から湖中号と「半面美人」印「芭蕉葉」印を譲り受けている。

38 『ささらぎ』（常磐大学情報メディアセンター蔵）

岡野湖中が生前自撰していた四季の発句抄を、湖中の没後一八年目にあたる嘉永二年（一八四九）に、江戸の豊島由誓の跋文を得て刊行された句集である。内題には「四壁堂発句抄　ささらぎ」とあり、半紙本一冊に春夏秋冬の湖中の句が収録されている。板下は湖中である。

第四節　龍ケ崎に俳諧道場を開いた杉野翠兄（一七五四～一八一三）

龍ケ崎の豪商杉野治兵衛は翠兄と号し、俳諧道場筑波庵を運営した。雪中庵三世大島蓼太に師事し、寛政一二年（一八〇〇）頃には玄峯号四世（一世嵐雪－二世吏登－三世蓼太）を継承している。ところが、文化二年（一八〇五）頃から雪中庵派（四世完来）から距離を置き、江戸の成美グループと親しくなる。これは一茶が葛飾派を離れて成美・道彦らに接近する状況と似ている。月並句合の景品を俳書にする等、俳諧道場として細やかな指導を行った翠兄は、のちに国学者として大成した沢近嶺をはじめ、常陸、下総地方を中心に多くの門人たちに影響を与えた。

39 野田市指定文化財　長命寺太子堂句額（極楽山長命寺蔵）

句額は各地で風化が進むが、千葉県野田市の長命寺に現存するこの句額は太子堂内に大切に保管しているため判読が可能である。四隅に大きな飾り金具を備え、天地に金砂がちりばめられており、一般の句額よりも豪華な造りになっている。文化三年（一八〇六）正月の奉納で、撰者は龍ケ崎の翠兄。龍ケ崎、取手、水海道の翠兄門人ら四五名の句が掲載されている。催主の帯雨は野田の人であるが、翠兄の編著の所書によれば、伊勢出身だったようである。

40 筑波山翠兄建立嵐雪句碑（龍ケ崎市）

建立年代は不明だが、翠兄が筑波庵で活動した天明六年（一七八六）から文化一〇年（一八一三）の間に筑波庵の庭内に建てられた。石碑の上部は満月を模って円形にくり抜かれている。芭蕉の高弟雪中庵嵐雪の別号に「玄峯」があったが、「玄峯」号は服部嵐雪（一世）－桜井吏登（二世）－大島蓼太（三世）－杉野翠兄（四世）と継承された。句碑建立に関する記念集等は確認されていないが、「玄峯」号を継承した翠兄の矜持が窺える句碑である。

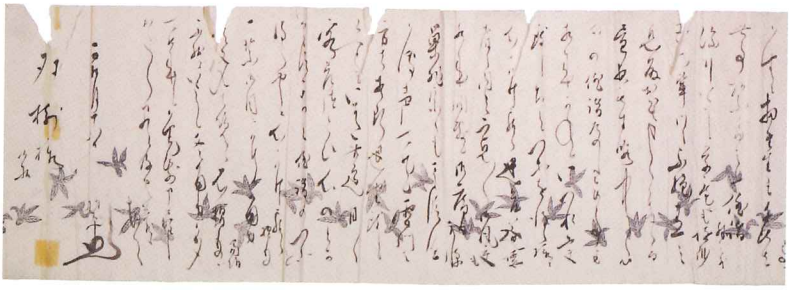
41 筑波庵（龍ケ崎市）

翠兄が天明六年頃に建てた草庵である。当時は筑波山の二峰を模して「筑波葺」の屋根を設えていた。天明期には蓼太（江戸）、寛政期には寥松（江戸）、文化期には遅月（水戸）が来訪している。寛政三年、一茶は翠兄と両吟歌仙三巻を巻いているが、筑波庵で行われた可能性が高い。翠兄はここを拠点に俳諧連歌蕉風道場を開いて庶民を教導した。現況の内装には床の間、長押、釘隠しなどに当時の様子が偲ばれる箇所がある。

42-1 双樹宛翠兄書簡　文化二年十一月十八日（個人蔵）

一茶を庇護したことで知られる流山（現千葉県流山市）の秋元双樹宛の翠兄書簡である。野田太子堂奉納句額（出陳資料39）の記述があり、本状が文化二年の書簡であることが特定できる。この頃の俳諧道場筑波庵は随身六名（能阿・竹里・文義・蜂子・月兎・桂文）を擁しており、かなり盛況であったことがわかる。雪中庵完来と袂を分かち、建部巣兆ら江戸の著名俳人と交流するようになった翠兄の転機がこの頃にあったことが判明する。

書簡用紙に点在する「ツクバネの実」模様は、羽根つきの羽の形をしており、「筑波根」の意味と掛けている。翠兄は評定が一点（もうひと頑張り）の句にこの模様の点印を押して研鑽を促した。



議案（３）　令和5年度事業計画（案）

種別		実施時期	内容	備考
記念物	申請・届出等（進達）	通年	コウノトリ	補助事業等の諸手続き
有形文化財（建造物）	調査・記録作成・申請・届出等（進達）	通年	近代建築（住宅・社寺）	国登録のための調査・記録作成
		通年	近代建築（住宅）	国登録のための諸手続き
民俗文化財	イベント	１２月上旬	民俗芸能のつどい	欅のホール・小ホール
	調査・記録作成事業	通年	災害関連文化財の調査・指定	文化財保護審議会への答申
埋蔵文化財	協議	随時		
	確認・本調査	随時		国庫・県費補助事業、市単独事業
	本調査	随時		公共事業・民間開発
	整理作業	９月～３月	寺後遺跡、岩名作遺跡（第１０次）	市単独事業
		１月～３月	令和３年度調査市内遺跡	国庫・県費補助事業
	刊行物	３月	令和４年度野田市内遺跡発掘調査報告	国庫・県費補助事業（令和３年度調査分）
		３月	野田市内遺跡発掘調査報告	市単独事業
教育普及・活用	文化財出前授業	４月～３月	郷土史の授業・昔体験 鈴木貫太郎関係	市内小・中学校
	刊行物	３月	のだ文化財だより	第３２号
	学習受け入れ	随時		
	講師派遣	随時	郷土史講座など	
鈴木貫太郎記念館	令和元年の台風１９号の影響により休館中。 被害の少なかったロビーでビデオ放映、小規模展示及び副館長による解説は実施する			
	資料整理	通年	資料目録の作成	
	資料調査	通年	鈴木貫太郎関係資料の調査	
	物品修繕	４月～３月	記念館所蔵絵画の修復委託	油絵２点（白川一郎「最後の御前会議」、刑部人「日露戦争日本海海戦」）
旧花野井家住宅	常設展示	通年	重要文化財建造物・民具の展示	
	その他	１月２６日	消防訓練	教育委員会、シルバー人材センター、消防本部、消防署、消防団による訓練及び清水保育所園児見学
地域計画	策定・会議	年４回程度	野田市文化財保存活用地域計画の策定	
	その他	１２月頃	パブリックコメントの実施	
その他	施設管理	随時	除草、清掃、樹木剪定	処刑場跡・関宿城跡・歴史広場・鈴木貫太郎記念館・岩名古墳公園・旧花野井家住宅・埋蔵文化財整理室・上花輪収蔵庫・中根八幡前遺跡・山崎貝塚公園
	助成等	３月	指定文化財維持保存奨励金	１２件：野田貝塚ほか
			無形民俗文化財維持保存奨励金	５件：野田のばっぱか獅子舞ほか
			野田市地域史編さん事業補助金	未定